

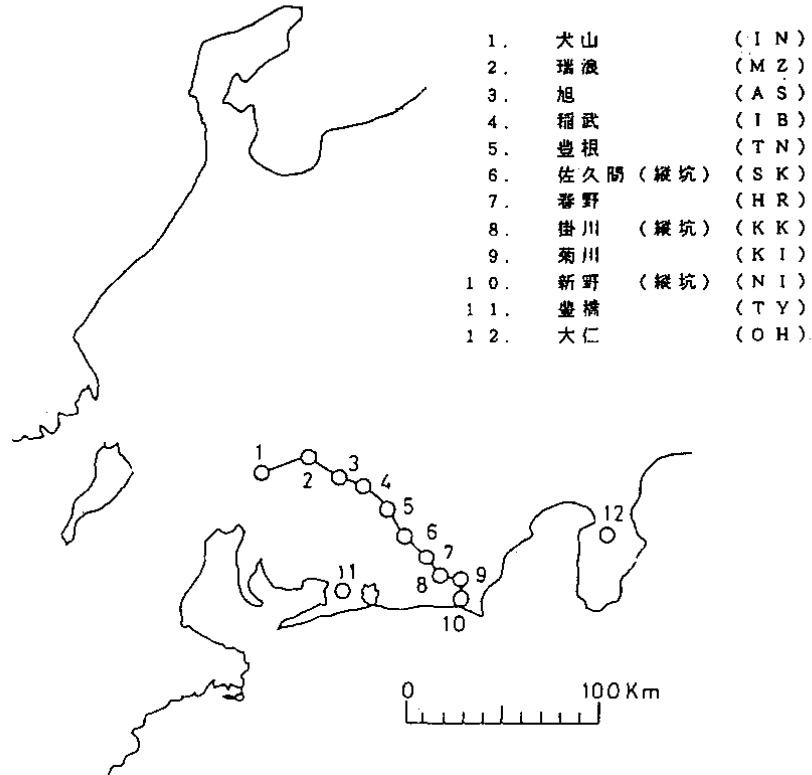
5-7 東海地方における地殻変動連続観測 (1994年1月~95年5月)
Continuous Observation of Crustal Strains in the Tokai District
(The Period from January, 1994 to May, 1995)

名古屋大学理学部
School of Science, Nagoya University

東海地殻活動総合観測線において観測された伸縮変化について報告する。1994年は降雨が少なく降雨の影響による短周期の変化の振幅は小さかった。1994年12月に三陸はるか沖で、1995年1月には兵庫県南部で大きな地震が発生した。兵庫県南部地震は観測線の西南西約230km程度の地点で発生したが直前には特別の変動は観測されなかった。けれども、第3図に示したように一部の観測点で地震に伴う明瞭な余効変化が観測された。

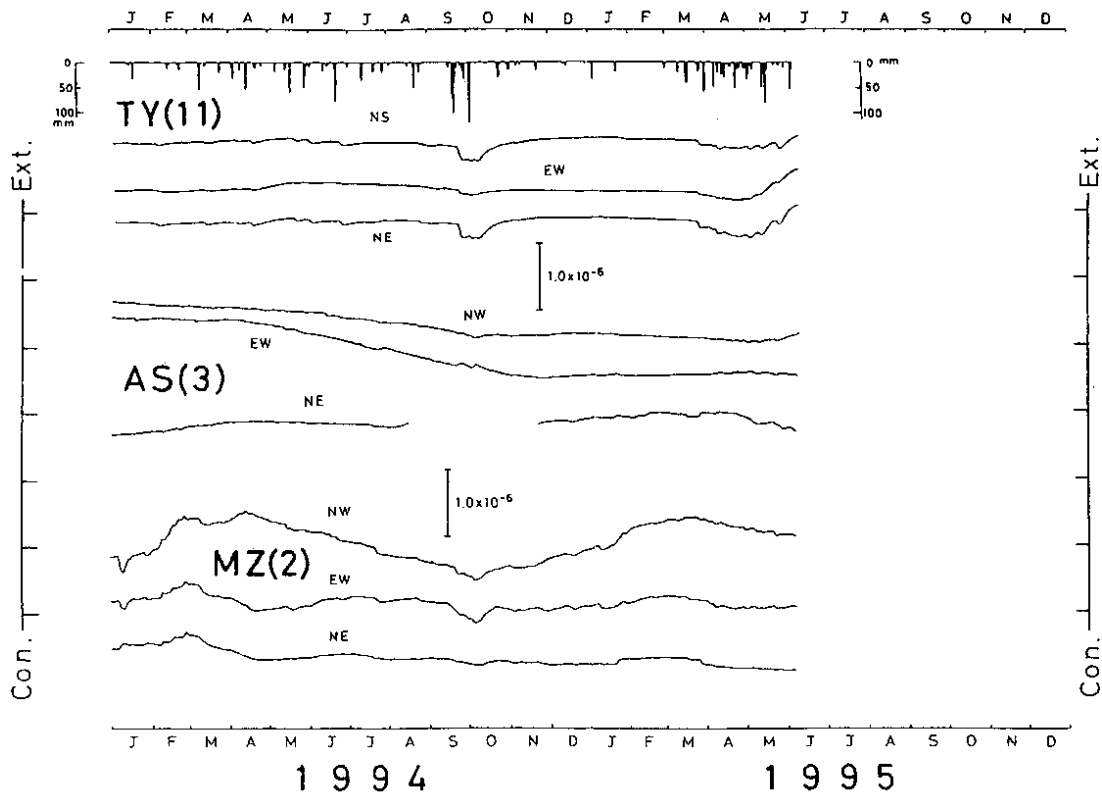
1995年4月に駿河湾北部で比較的大きな地震が発生した。この地震の震源に比較的近い大仁(OH)、春野(HR)及び菊川(KI)の伸縮変化を第4図に示した。また、図には、震源に最も近い大仁観測点の潮汐解析プログラムで推定したトレンドも記した。これらから分かるようにこの地震の前には特別な変化は観測されなかった。

地殻活動総合観測線



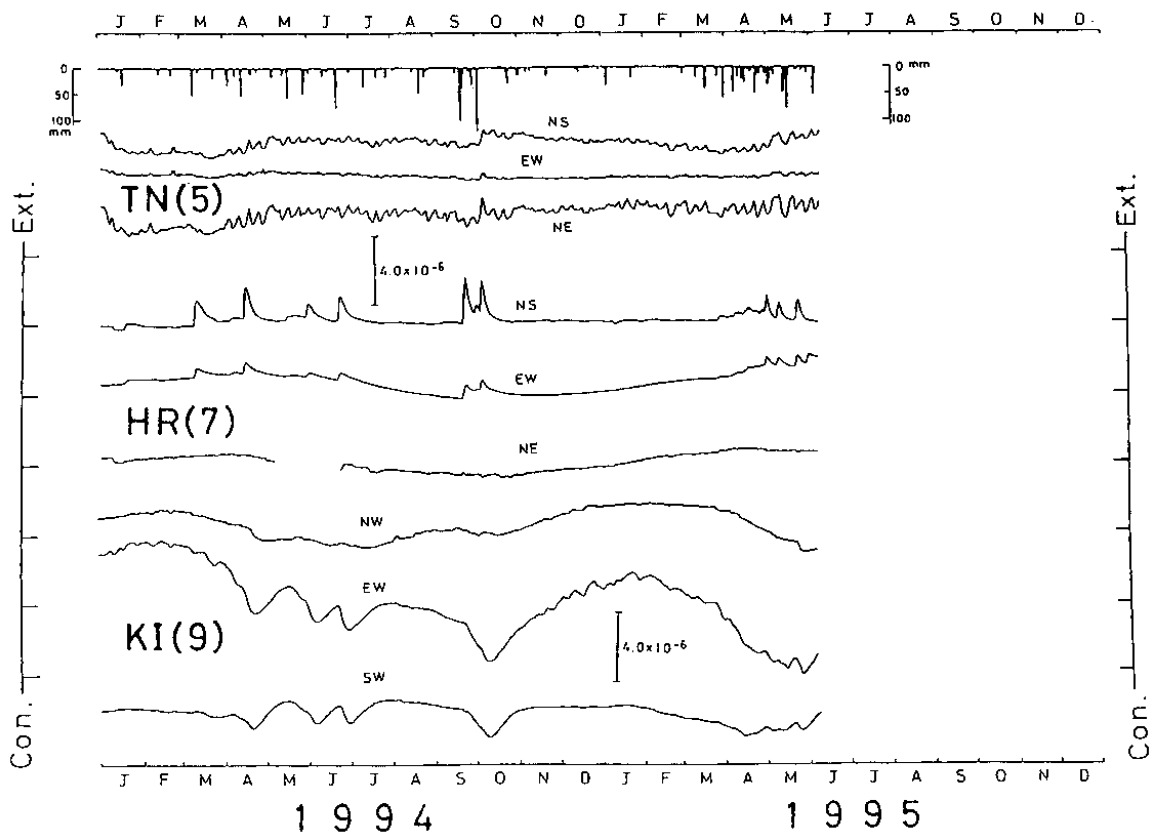
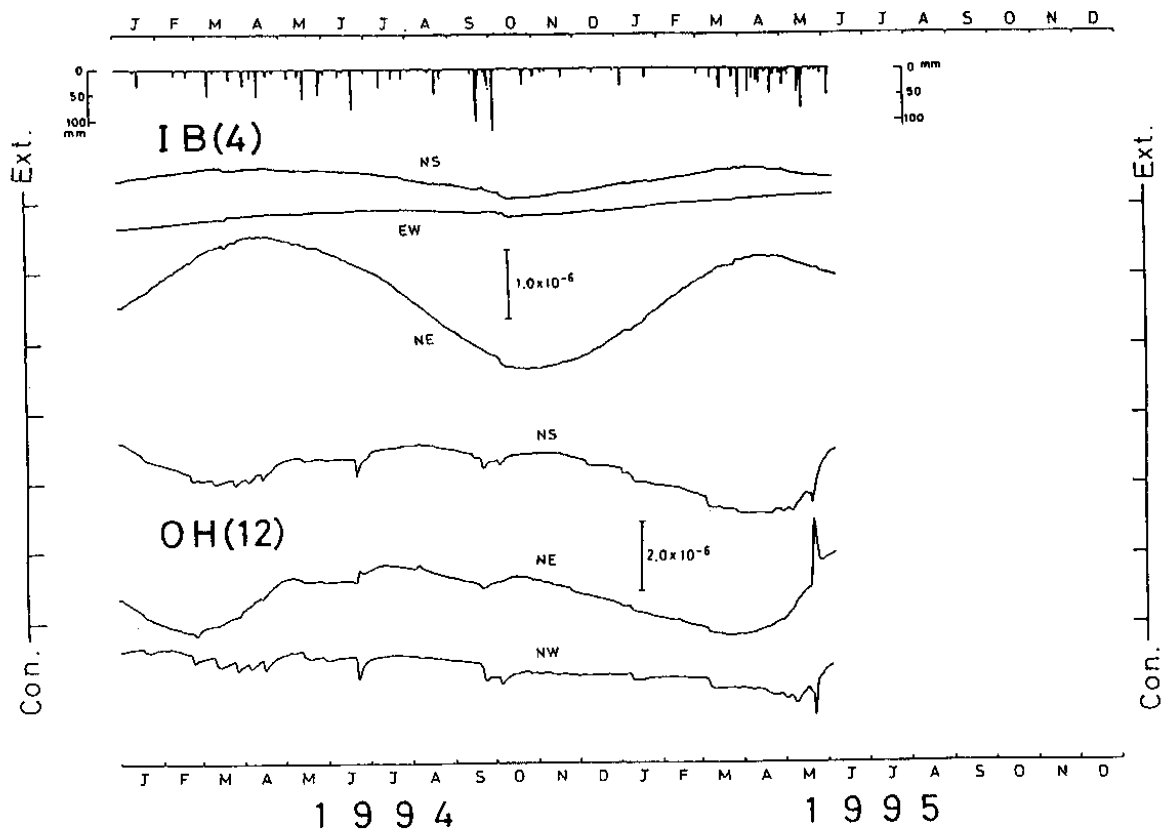
第1図 観測点配置図

Fig.1 Location of observation stations.



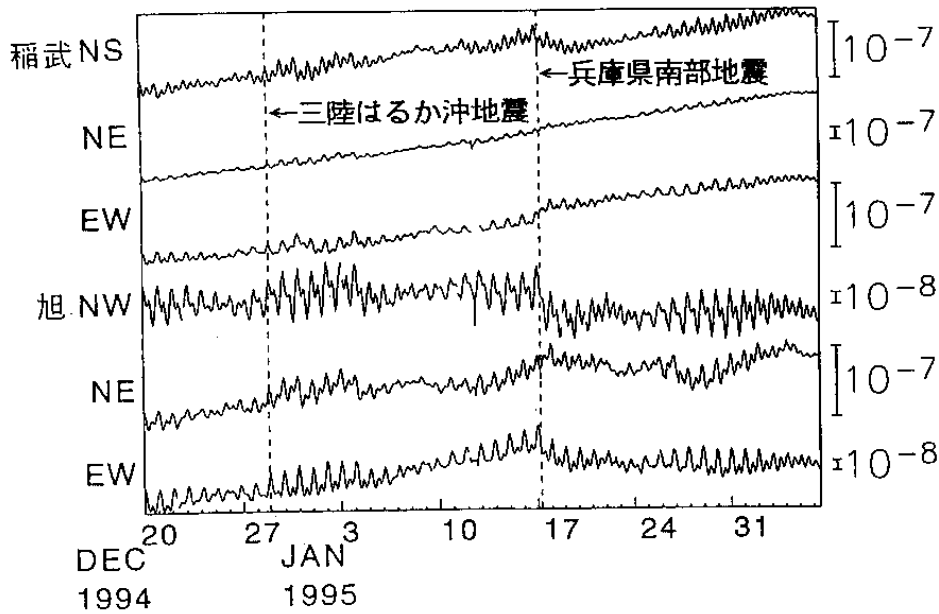
第2図 石英管伸縮計により観測された豊橋 (TY), 旭 (AS), 瑞浪 (MZ) における伸縮変化 (1994年1月~95年5月)

Fig.2 Strain changes observed by extensometers at TY (11), AS (3), MZ (2), IB (4), OH (12), TN (5), HR (7), and KI (9) for the period from January, 1994 to May, 1995.

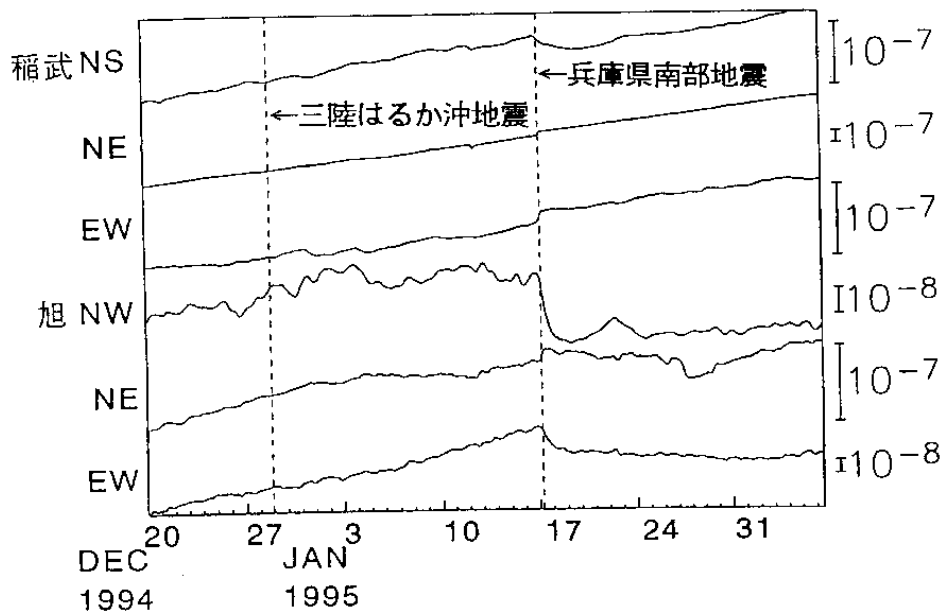


第2図 つづき
Fig.2 (Continued)

観測された歪データ



推定されたトレンド



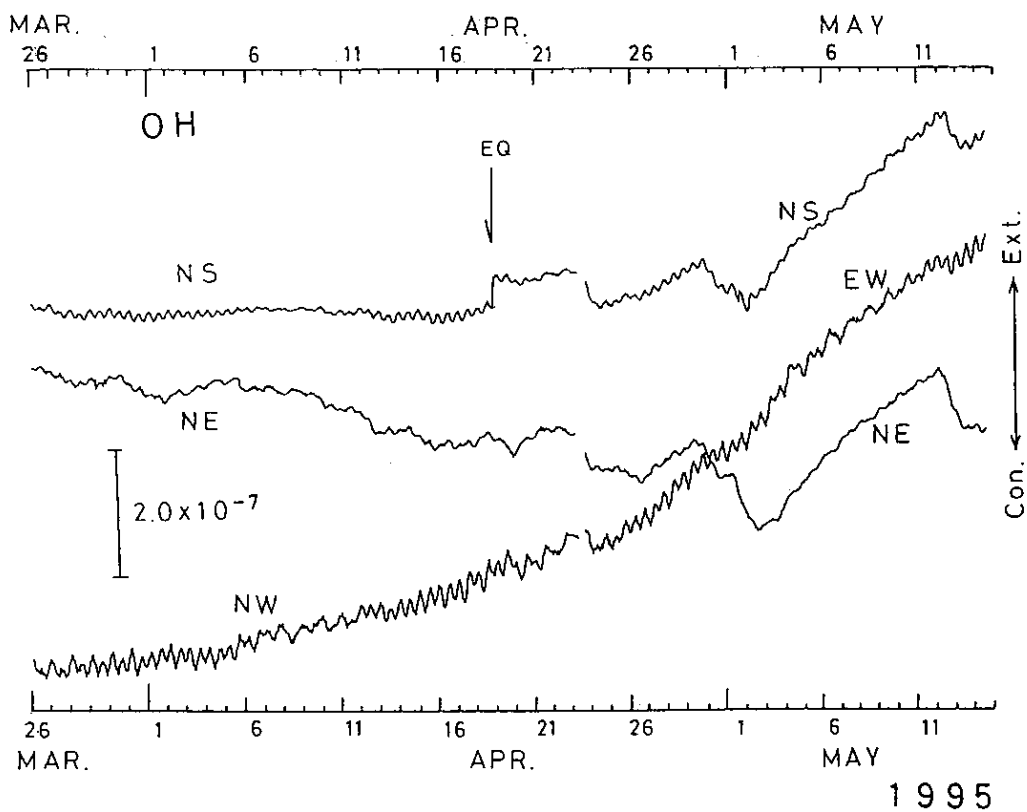
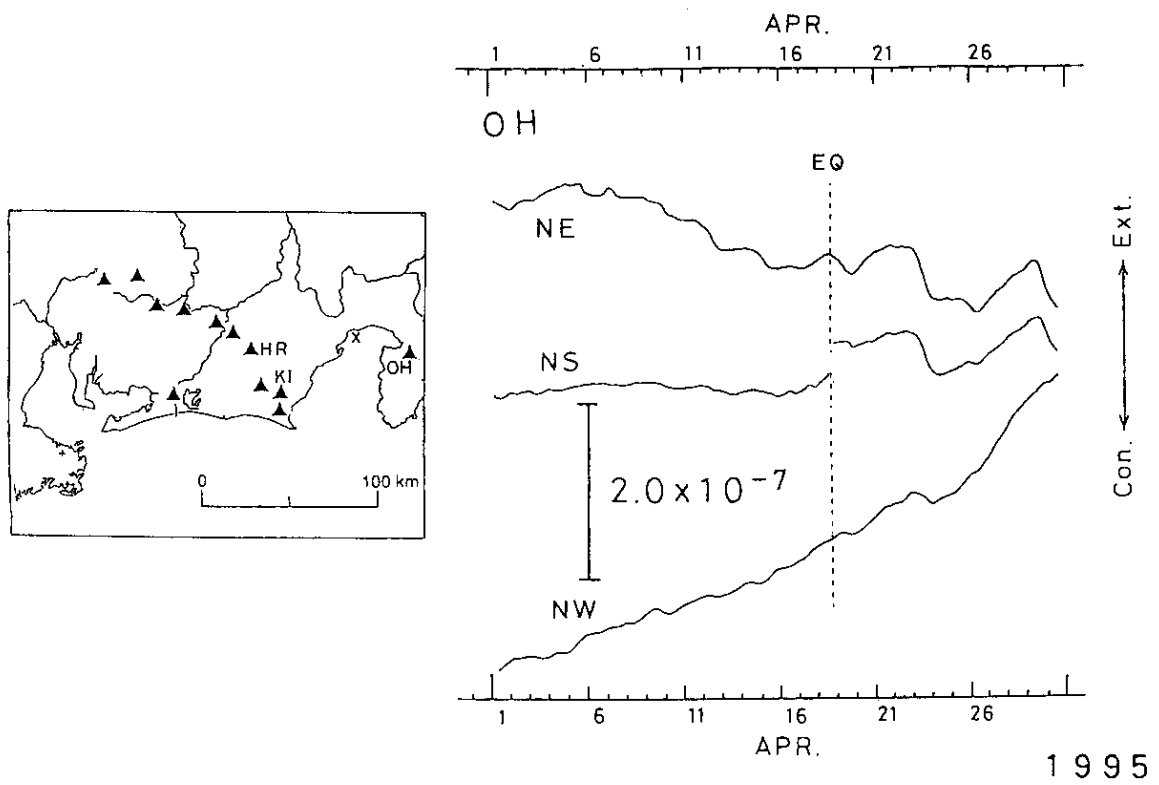
三陸はるか沖地震及び兵庫県南部地震前後の伸縮変化

(旭及び稲武観測点の場合)

上部が観測された現記録、下部がBAYTAP-Gにより地球潮汐成分を取り去った記録。余効変動が明瞭に見られる。スケールはそれぞれ右端に記した。

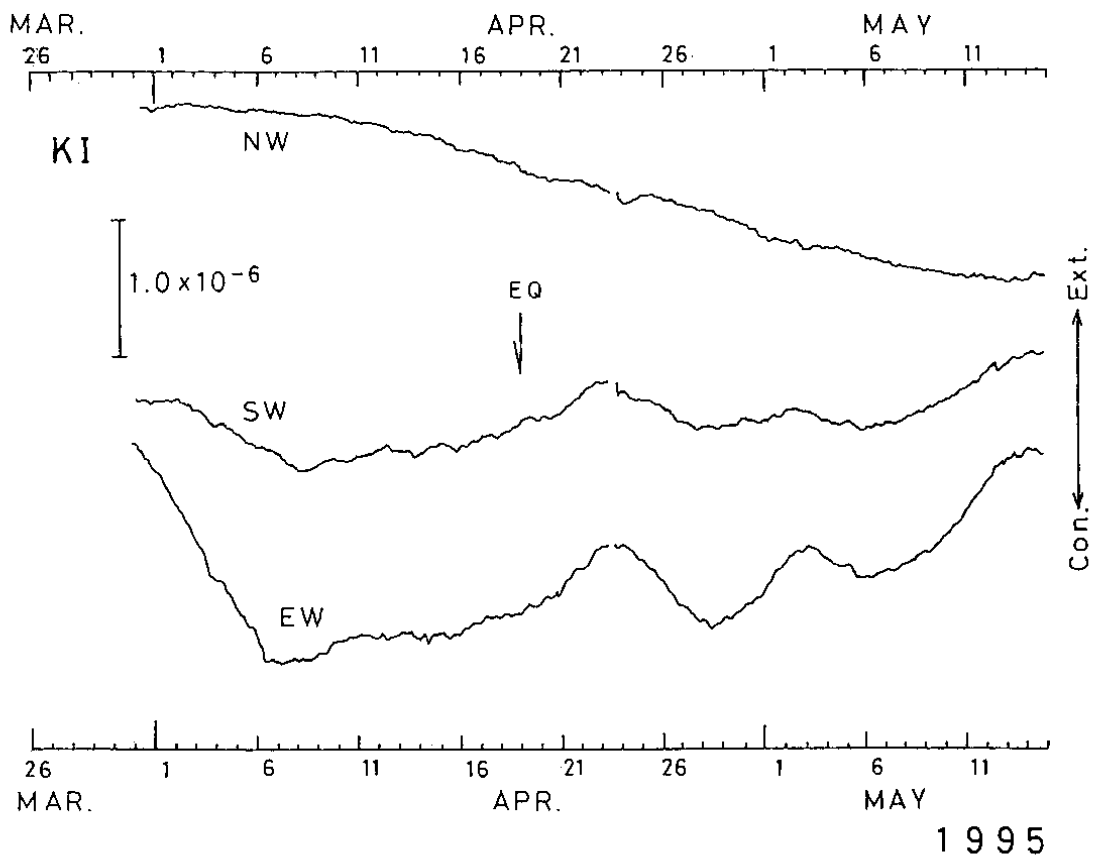
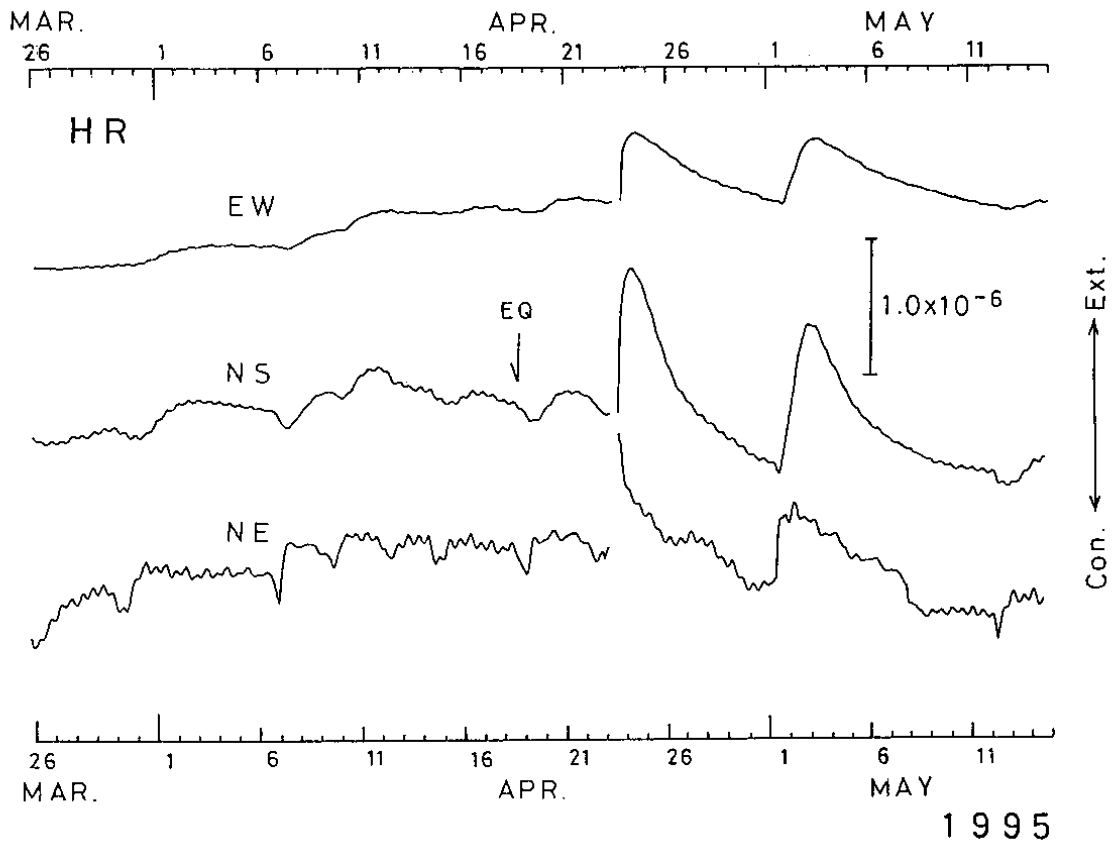
第3図 三陸はるか沖地震及び兵庫県南部地震前後の稲武及び旭における伸縮変化。上部は1時間値をプロットしたもので、下部は潮汐解析プログラム BAYTAP-G で求めたトレンドである。

Fig. 3 Strain changes observed at Inabu and Asahi before and after the earthquake in the region far off Sanriku, and the Hyougoken-Nanbu Earthquake (upper), and there trend decomposed by using the program BAYTAP-G.



第4図 駿河湾北部地震前後の大仁 (OH), 春野 (HR) 及び菊川 (KI) における伸縮変化。大仁に関しては潮汐解析プログラム BAYTAP-G で推定したトレンドを示した。

Fig. 4 Strain changes observed at Oohito, Haruno, and Kikugawa before and after the earthquake in the northern Suruga bay.



第4図 つづき

Fig.4 (Continued)